

WG6：社会展開

I. 主旨・目的

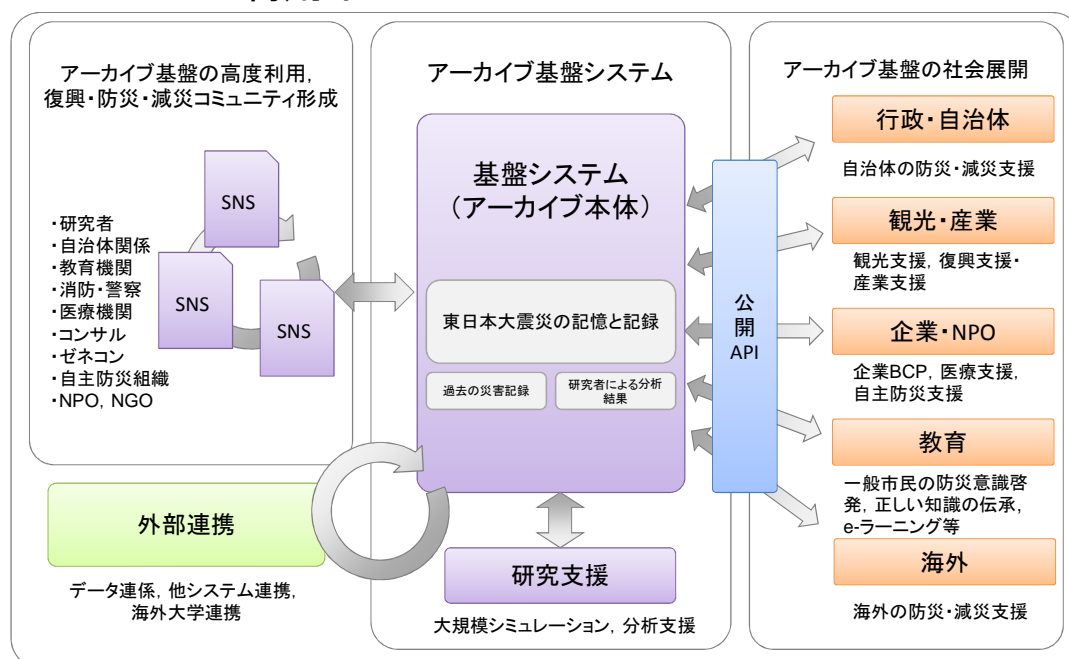
「みちのく震録伝」の震災アーカイブデータを社会に展開するための方法について議論する。社会展開 WG では、自治体、観光・産業、企業・NPO、教育、海外、医療など様々な業種に分けて行い、それぞれに適した震災アーカイブデータの利活用方法について取りまとめることを目的とする。なお、本ワーキンググループは準備中である。

WG6-2 : SNS

I. 主旨・目的

「みちのく震録伝」では、ユーザーインターフェースとして SNS の利用を検討している。SNS については、既に多様なサービスが提供されており、ライセンス・課金形態についても様々な選択肢がでてきていることから、「みちのく震録伝」で実装すべき SNS システムについて検討し、システム構成についての方針を取りまとめることを目的とする。

1. SNSの利用イメージ



2

図 W6-2-1 「みちのく震録伝」での SNS 利用イメージ (下)

II. 目標

本開発に向けて、「みちのく震録伝」の SNS 機能を整理する。

III. 実施体制

本検討については、コアメンバーで検討を行う。

1) ワーキンググループ参加者

表 WG6-2-1 GIS サブワーキング参加者一覧(*印は、ワーキングリーダー)(下)

所属機関	役職	氏名
独立行政法人 科学技術振興機構	主任調査員	伊藤 なほみ*
東北大学	准教授	柴山 明寛
東北大学	助教	佐藤 翔輔
東北大学	受託研究員	岡元 徹
独立行政法人 科学技術振興機構	主任調査員	岩崎 雅宏

独立行政法人 科学技術振興機構	主任調査員	南 幸弘
独立行政法人 科学技術振興機構	主任調査員	水科 良浩

2) 関連するワーキンググループ

WG5：システム，WG5-2：ストレージ，WG9：システム連携，WG10：著作権

IV. 検討成果

1) SNS 利用者の検討

「みちのく震録伝」は、収集した情報を研究者に提供し、研究支援を行う一方で、収集データや研究成果を企業・自治体・一般の利用者へ提供する。設定する利用者層の範囲が広いいため、SNS を利用してシステムにアクセスする利用者について検討を行なった。

(a) 研究者

これまでの研究者へのインタビュー等を通じて、研究者間の情報公開については、詳細なコミュニティ分けが必要であり、またタイミングによって公開の範囲が変化することが明らかとなった。

また、データの相互利用においては、権利処理・許諾請求等が発生し、手続きのためにも相互のコミュニケーション機能が必要となる。

SNS の利用は、研究者にとって、情報の共有・利用の観点から利点があることと判断し、利用者として想定することとした。

(b) 自治体・企業

自治体・企業が、震災対応に関して保持する情報・公開可能な情報の調査はこれからであるが、各々保持する情報が全て公開対象とならないことは、活動上やむを得ないことである。一方で、研究目的であれば限定的に公開可能な情報も多くあることから、権限付与が要求を満たすものであれば、重要な情報が収集できる可能性も高まる。

また、より詳細な情報を企業間で情報交換することにより、今後の事業検討に役立つケースも想定される。提供される情報は、時に有償である場合も考えられるため、利用者の情報管理が必要となる。

以上、情報提供の推進と活用の観点から、利用者を制御できるシステムが必要となり、これを SNS 環境で実装することは可能と考えられる。

(c) 一般利用者

最終的に防災・減災に関わる情報を届ける先は一般の利用者である。蓄積した情報をより多くの人に伝える目的としては、ユーザーID/パスワードを使用せずにアクセスできることが望ましいため、Web アクセスによる利用が主となる。情報のアップロードや、個人ごとにカスタマイズするようなサービスが発生した場合は、別途考慮する。

SNSの利用者

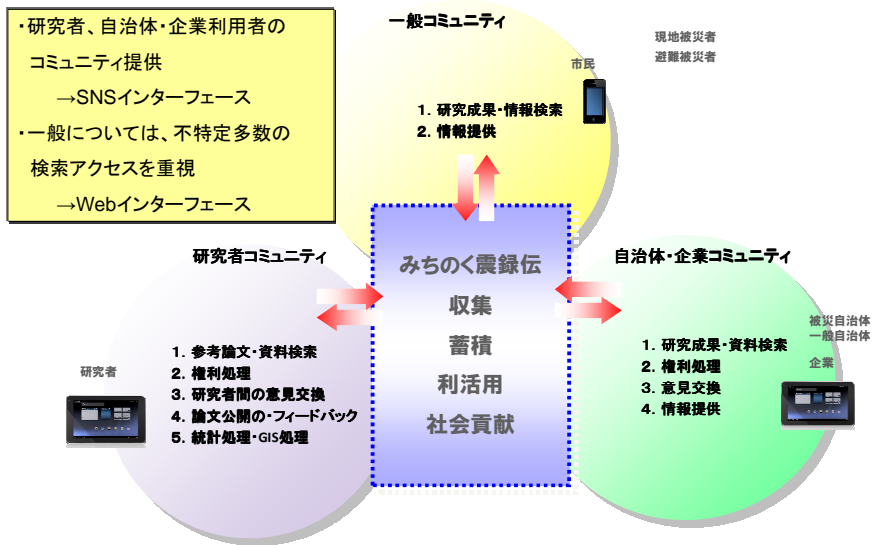


図 WG6-2-2 「みちのく震録伝」利用サービスと SNS(下)

2) 利用機能の想定

インタビューを行なった研究者の利用想定から、必要な SNS 機能を洗い出すと、以下の通りとなる。

- 認証
- 情報検索（著作権保持者まで確認）
- 情報保管／権限設定
- 情報のアップロード／ダウンロード
- コミュニティの構築
- 個人レベルでの相互メッセージ交換
- 登録情報の閲覧状況確認

例: 研究者の利用想定

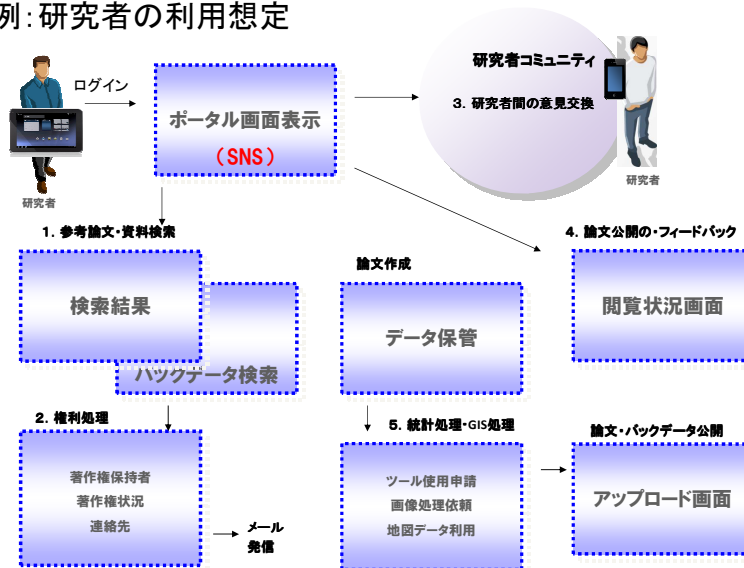


図 WG6-2-3 研究者の利用想定

一般ユーザーの SNS サイトで利用されるツイート、ブログ、Wiki などの機能に結びつく要件はなかった。

3) システムの構成の検討

必要な機能の一部、コミュニティの構築や個人レベルでの相互メッセージ交換などは、SNS システムとの親和性が高く、また、利用者の認証、ポータル機能、個人の要求に応じたカスタマイズ機能等、個人の操作性を向上させる機能についても SNS システムの利用が効果的である。

ただし、「みちのく震録伝」から提供される情報は、アーカイブ対象のデータである。長期保存が必要な情報であり、アクセスについても情報によっては管理が必要なものとなる。大容量のこれらの情報を高速に検索するための仕組みも必要である。これらは、アーカイブシステムの基本機能として求められる機能であり、これを SNS 上で提供されるデータベース上に構築することは難しい。

以上のことから、「みちのく震録伝」のシステムは、コミュニケーションを中心とした SNS 機能と、データの保管・検索等に特化したアーカイブ基本機能に分割し、それぞれが独立したシステムとして稼働できるようにする一方で、情報連携が可能なインターフェースを構築する必要がある。

システム配置

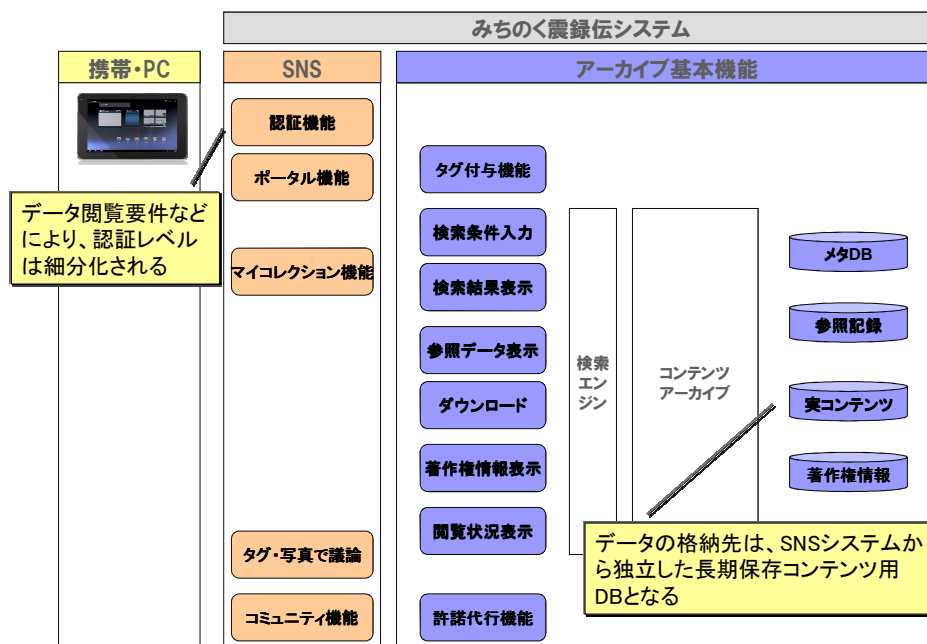


図 WG6-2-4 SNS とアーカイブ基本機能

このような要件を実装するためには、通常の SNS サービスに対して、セキュリティ要件の反映、SNS システム外部データベースへのアクセスなど、相応のカスタマイズが必要となる。

既存の SNS サービス、オープンソースなどを調査した結果、外部アプリケーションとの連携が可能で、要件に柔軟に対応できるという観点から、オープンソースを利用した

環境の構築を行う方向で検討を進めることになった。 今後は OpenPNE や、さらに Web アプリケーション連携を配慮した Apache Shindig + OpenSocial API などを使用したシステムを試行することになる。

表 WG6-2-2 SNS 機能比較

サービス名称	提供	提供方法	課金 利用形態	コミュ ニティ	掲示板	マイ ページ カスタ マイズ	メッ セージ 交換	アップ ロード	リン ク登 録	認証	セ キュ リ ティ 要件	外部 DB連 携
知創空間	富士通	ホスティングサービス	有料 利用ID数ごと	○	○	○	○	○	○	○	×	×
INTERSNS	日立	導入型 ホスティングサービス	有料	○	○	○	○	○	○	○	○	×
Social Tool Mart / SNS	NEC	ホスティングサービス	有料	○	○	○	○	○	○	○	×	×
OPNEPNE	Opensource	開発型	無料	○	○	○	○	○	○	○	○	○ (外 部 APL 連
Apache Shindig + OpenSocial API	Opensource	開発型	無料	○	○	○	○	○	○	○	○	○ (外 部 APL 連

WG7：資金

I. 主旨・目的

「みちのく震録伝」の活動資金を確保する為、「みちのく震録伝」では産官と連携し、資金の確保に努める。

WG8：アウトリーチ

I. 主旨・目的

みちのく震録伝の利活用を促進する上でのアウトリーチ活動は非常に重要である。平成 24 年度以降に開発する本システムの公開を受けて、本格的なアウトリーチ活動を行う予定である。

WG9：システム連携

I. 主旨・目的

「みちのく震録伝」のアーカイブシステムと既存システムとの連携の可能性について議論を行う。本 WG は、社会展開 WG との連携を行いながら進めて行く。なお、本ワーキンググループは準備中である。

WG10：著作権

I. 主旨・目的

「みちのく震録伝」で収集した資料の円滑な公開、利活用を目指す為、「みちのく震録伝」で発生する著作権の課題を精査し、解決する。なお、本ワーキンググループは準備中である。